

物語の内容を読み取る

月 日 年 組 番

名前

正答数

5

マーク



次の文章を読んで、下の問題に答えましょう。

「うちゅう飛行士になりたいけれど算数が苦手な潤は、ある日、自分と同じように星の好きなおじさんに出会う。」

算数の中に、星のかがやきなんてあるもんか。数字も、数式も、ちっとも美しくなんかいい。ただたいくつで、つまらないだけだ。

①ぎゅっと口をむすんだまま下を向いている潤を見て、おじさんが言った。

「ちよっときみの筆箱を出してみてるかい。」

②「……えっ？」

「その中に、うちゅうのひみつがかくれているから。」うちゅうのひみつ！

いったい何を言ひ出すんだろ、このおじさん……。不思議に思いながらも、潤はかばんの中をさがしはじめた。潤の筆箱は、一年生のときから使い続けているマグネット式の両面筆箱だ。

「ほら、その筆箱の裏側のふたを、開いてごらん……。」おじさんのゆっくりとした、おだやかな話し声に、潤は何だかばんやりとした気持ちになった。そうしておじさんに言われるがまま、③うちゅうのひみつのとびらを聞くように、筆箱のふたをそっと開けた……。

けれども、筆箱の中に入っていたものは、いつもの見慣れた三角定規だけだった。

潤はとてものがっかりして、④なんのへんてつもない小さな三角定規をじっと見つめた。そのとき、

「その三角定規の内角の和は、何度になる？」

と、おじさんが聞いてきた。

「え!? ええと、一八〇度でしょう？」

「その通り。」

それからおじさんは、ゆっくりと右手を上げて夜空を指差した。

「それじゃあ、あの『冬の大三角』の内角の和は？」

「もちろん一八〇度だよ。」

「そう。きみの筆箱の中にある小さな三角定規の内角の和も、あの広大な夜空に広がる三角形の内角の和も、等しく一八〇度というわけだ。⑤それはなんて美しいことだろう、と思わないか？」

(かんのゆっく「とびらの向こうに」より)

(1) ①ぎゅっと口をむすんだまま下を向いている潤とありますが、この様子から潤のどのような気持ちがわかりますか。次から一つ選びましょう。

- 1 算数を前向きに受け入れられない気持ち。
- 2 算数を好きになろうと決意する気持ち。
- 3 算数が苦手な自分がはざかしい気持ち。

(2) ②「……えっ？」とありますが、このときの潤の気持ちとしてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 意外なことを言われてとまどっている。
- 2 勝手なことを言われておこっている。
- 3 無理な要求をされてこまっている。

(3) ③うちゅうのひみつのとびらを開くようにとありますが、このような潤の気持ちを表す言葉としてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 反省
- 2 期待
- 3 あきらめ

(4) ④なんのへんてつも見つめたとありますが、このときの潤の気持ちを表す言葉としてふさわしいものを、次から一つ選びましょう。

- 1 いかり
- 2 おそれ
- 3 失望

(5) ⑤それはなんてと思わないか?とありますが、おじさんはどのようなことを「美しい」と言っているのですか。□に入る言葉を文章中からぬき出しましょう。

筆箱の中の	
夜空の	

内角の和が等しいということ。

物語の内容を読み取る

- (1) 1 (2) 1 (3) 2 (4) 3 (5) 三角定規・冬の大三角